

アキグミは晩秋のぐちそう？

草木は茶色く枯れ、寒風が吹き抜ける晩秋の石狩浜。毎年この時期になると、何百羽ものムクドリの大群が浜を訪れます。目当てはアキグミの実。

一般に庭木などで「グミ」といわれるものは、ナツグミというもので、夏にだ円形の赤い実を付け、野生では主に山地に生育します。



たわわに実ったアキグミの実

これに対してアキグミは、秋に実ります。風や、栄養の乏しい土地にも強く、飛砂防止の樹木として各地で植栽されています。石狩浜では、すでに植栽されたわけではありませんが、そのおう盛な生育力により、あちこちで見ることが出来ます。

6月初旬に咲いた花は、海辺の過酷な環境の中、ゆつくりと実に成熟し、9月末ごろから赤くなります。ちょうど、ハマナスの実が熟して多くが落ちてしまふのと入れ替わるようなタイミングです。

10月に浜の草原で見つけたキタキツネのフンには、アキグミのタネがびっしりと入ったものがたくさんありました。浜で暮らすキタキツネにとって、アキグミの実は、晩秋から初冬の大切な食べ物なのです。



アキグミのタネが入ったキツネのフン
(※野生動物のフンは、その動物が何を食べて生活しているのかなどを知る、生態調査のための大切な手がかりです)

アキグミとキタキツネ、双方に得があるのですね。

秋には渋さが口に残り、私たちにはあまりおいしいとは言えないアキグミの実ですが、寒い日が続くにつれて渋さは徐々に除かれ、甘さが増してきます。

しかし、浜のアキグミは背が低く、そのころには雪の下。たわわになった実も、食べられずに雪に埋もれてしまうものも多いようです。

(内藤華子)

■文化財課 ☎72-6123

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107 (冬期 ☎72-3240)

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp